

東京大学史料編纂所編

『描かれた倭寇』

——「倭寇図巻」と「抗倭図巻」——

吉川弘文館 二〇一五・一刊

B5 一一二頁 二五〇〇円

本書は、教科書でも多く取り上げられる著名な史料である「倭寇図巻」を改めて取り上げ、新史料の紹介、最新の研究成果を踏まえながら、それらの歴史的背景、さらには史料論的な考察にまで踏み込んだものである。

第一章・第二章では、五〇ページ近くにわたって、倭寇を描いた二つの図巻をオールカラー・解説付きで紹介する。第一章「倭寇図巻」の魅力を探る」に掲載されるのは言わずと知れた東京大学史料編纂所所蔵「倭寇図巻」だが、一般には海上合戦のシーンしか知られておらず、全編が最新の研究成果を踏まえた解説によって紹介されたことに意義がある。第二章「二つめの倭寇図巻——「抗倭図巻」の発見」では、最近になって存在が知られるようになり、「倭寇図巻」との関連が目される中国国家博物館所蔵「抗倭図巻」の全貌が、日本で初めて公開される。

両図巻の内容を紹介したうえで、第三章「比較検討「倭寇図巻」と「抗倭図巻」」では、両者のモチーフ・表現様式を比較検討している。さらに、これらが作成された明代後期の文化状況にも言及し、両図巻がこの時期に多く作成された「蘇州片」と呼ばれる贋

作類（複製・模本も含む）の一つであったことが指摘される。そして両図巻の共通性、これらが模本であることから、『原倭寇図巻』の存在が推定される。

第四章「三つめの倭寇図巻？——幻の「平倭図巻」」では、清代中期の文人張鑑によって執筆された「文徵明画平倭図巻」の中で言及されている「平倭図巻」（図巻自体は現存せず）について考察している。張鑑による「平倭図巻」図中人物に関する考察を見ると、「抗倭図巻」と驚くほど一致する。この「平倭図巻」は『原倭寇図巻』そのものであったか、強い関連を持つものと考えられ、様々な可能性を踏まえながら、『原倭寇図巻』には何が描かれていたか、それが蘇州片として複製・流通する中でどのように主題が展開変化していったか、という問題が論じられている。

第五章「倭寇の記憶——「太平抗倭図」の世界」では、「倭寇図巻」などとは別個の倭寇図として、中国国家博物館所蔵「太平抗倭図」を紹介している。この図巻は太平の町の倭寇撃退の記念碑的存在であり、内容を紹介しつつ「倭寇図巻」と受容のされ方について比較をしている。

以上本書の内容の紹介であるが、本書の意義としては、これまで著名ではあるが何が描かれているかなど基本的情報が明らかではなかった「倭寇図巻」について、他の倭寇図との比較、近赤外線撮影による文字の読解などによって多くの新事実を明らかにしたこと、さらに作成された当時の文化状況とも照らし合わせることで、「倭寇図巻」が孤立した作品としてではなく、他史料との連関のもとに捉えることができるようになったことが挙げられ

る。所々に挿入されるコラムでも最新の研究成果が紹介されており、今後の倭寇研究の起点となると同時に、一般の読者も専門家も十分に満足できる内容になっている。

(海上貴彦)